

## 2026年度 SDGsセンター員が決定しました！

2026年度の各研究科のSDGsセンター員が決定しました。センター員は、本学が行うSDGsに関する事業の推進及び調整に努めるとともに、各研究科等における連絡調整をしています。

### 【センター長】

林 秀敏 (特任教授)

### 【副センター長】

高桑 修 (医学研究科)

曾我 幸代 (人間文化研究科)

金子 典代 (看護学研究科)

熊澤 慶伯 (理学研究科)

### 【センター員(各研究科)】

奥田 勝裕 (医学研究科)

宮嶋 ちはる (薬学研究科)

渡辺 直樹 (経済学研究科)

馬渡 玲欧 (人間文化研究科)

野中 英 (芸術工学研究科)

久保田 正和 (看護学研究科)

鈴木 善幸 (理学研究科)

白間 綾 (データサイエンス研究科)

## 加山興業株式会社の壁画プロジェクトにて本学の学生が参加しました！

本学SDGsサポーターの加山興業株式会社が実施する「壁画プロジェクト」に本学芸術工学部の学生が参加し、愛知県豊川市にある同社のリサイクル工場の壁面をキャンバスとして、「ゴミ山に立つビル × 自然」をテーマに作品の制作に取り組みました。

壁画プロジェクトは、同社が2018年より大学生と連携して、美術に関わる学生の表現の場としての活用や文化芸術振興などを目的として実施されています。

制作の様子は加山興業株式会社公式Instagramよりご覧いただけます。

▷ <https://www.instagram.com/p/DYTD9F7zwj5/>

SDGsサポーターとは？

本学のSDGs活動に賛同し、本学とSDGs推進を行う学外の団体・個人



## NCU サステナビリティ・プレゼンアワードの参加者を募集します！

2026年10月31日(土)に、「NCU サステナビリティ・プレゼンアワード -若者が考える持続可能な社会-」を開催します。

本イベントは高校生・大学生の自由な発想で持続可能な社会を実現するための「課題提起」と「その解決・改善策」を発表するプレゼンテーション大会です。今年のテーマは「助」です。高校生・大学生の皆さんのエントリーをお待ちしております！

### 【イベント概要】

- ・日 時：2026年10月31日(土) 午後1時から午後4時30分
- ・会 場：名古屋市立大学田辺通キャンパス宮田専治記念ホール
- ・対象者：高校生または大学生のグループ (1グループ最大10名)
- ・内 容：①各グループのプレゼン発表  
②高校生・大学生の混合ワークショップ

詳細は  
こちらから





本学の研究や取り組みとSDGsとのつながりを紹介するコラムです。  
第7弾として経済学研究科の渡辺直樹先生の取り組みをご紹介します！

## 企業の『ESG活動』と金融の関係性って？

私が学生だった1990年代～2000年代初頭は、金融再編や金融ビッグバンの影響で、日本の金融システムが従来の間接金融からアメリカ型の直接金融へ移行すると言われていた時代でした。  
「このままでは、時代に後れをとってしまう！」という危機感を抱き、将来に備えて金融について大学院で学び始めました。学ぶ内にその面白さを感じるようになり、現在まで研究を続けています。昨今は企業の“ESG活動”の分析や指標化を経済学研究科の坂和秀晃先生と取り組んでいます。



渡辺先生

### 企業が行う『ESG活動』とは・・・？



**Environment**  
(環境)

ex) 温室効果ガスの削減  
再生可能エネルギーの導入



**Social**  
(社会)

ex) 働き方改革  
ボランティア活動



**Governance**  
(ガバナンス)

ex) 法令順守  
経営の透明性

以上3つの観点を重視し、企業が社会的責任を果たしながら、持続的な成長を目指す活動のことです。  
近年の企業価値の指標としては「利益の追求」だけでは不十分とされ、企業による「環境・社会・ガバナンスを意識した活動」は、長期的な価値向上の指標として世界中で重視されています。  
また、投資家も企業の財務状況だけでなく、ESGの取り組みを評価して投資先を決定する「ESG投資」が拡大しています。

### 渡辺先生の研究について

#### 企業と銀行の関係性が与えるESG活動への影響

アメリカにおいて、リレーションシップ・バンキング(※)が企業のESG活動を高めるという先行研究を踏まえ、企業と銀行との関係性が強い日本でも同様の関係が成立するかを分析しました。

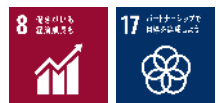
〔※財務データだけでなく企業との長期的な関係性なども総合的に加味して融資取引を行う銀行。日本でもこの形態で融資査定を行う銀行が多い。〕

その結果、日本においても取引を行うメインバンクと強い関係性を持っている企業の方が、ESG活動が積極的に行われていることが分かりました。コロナ禍などで融資が縮小していた環境下でも、リレーションを重視する銀行のおかげで、企業の資金調達が維持しやすく、継続的なESG活動を支える可能性が示されました。

こうした関係は、市場全体のESG活動を後押しする市場の形成にも貢献していると考えられます。



<共同研究者>  
経済学研究科  
坂和先生



SDGsセンター長  
林 秀敏 先生

渡辺先生と坂和先生の研究は、企業と銀行の関係性が、実はESG活動を支える役割を果たしていることを明らかにした点に大きな意義があります。特に、コロナ禍のような不安定な経済環境においても、金融機関との信頼関係が企業の持続的な活動を支え、ESG推進につながる可能性を示した興味深い研究です。こうした金融面からの支援は、SDGsが目指す持続可能な社会や経済活動の実現にもつながる重要な視点であり、今後ますます期待される研究だと感じます。

## お問い合わせ

名古屋市立大学SDGsセンター事務局  
(経営企画部企画課内)

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1

Tel : 052-853-8806

Mail : [ncu-sdgscenter@sec.nagoya-cu.ac.jp](mailto:ncu-sdgscenter@sec.nagoya-cu.ac.jp)

<https://www.nagoya-cu.ac.jp/sdgscenter/>

